

# 第1学年 生活科学学習指導案

1 単元名 「とびだせ！あそびたい あき」

2 単元目標

<生活への関心・意欲・態度>

自分の通学路や生活の場にある草花・実などの自然に関心をもち、進んで採集したり、それらを利用して遊んだり、見つけたものについて話したりしようとする。

<活動や体験についての思考・表現>

身の回りで見つけた自然を利用した遊びを考えたり、もっと、楽しくなるように遊びを工夫したりすることができる。

<身近な環境や自分自身への気付き>

自然の面白さや不思議さ、自然を利用した遊びのよさなどに気付くことができる。

身近な自然を利用して楽しく遊ぶことのできた自分のよさに気付く。

3 指導観

## こんな子どもだから

本学級の子どもたちは、1学期に「がっこうだいすき」の単元で校舎内の探検活動を、「ぐんぐんそだて」の単元で朝顔の栽培を、「とびだせ！あそびたいはる」の単元で校区内の公園で遊ぶ活動を行っている。そして、それらの活動を通して気付いたことをカードに書いて交流してきている。

子どもたちの書いたカードを見ると、「ボタンがたくさんついた機械（放送機）」「うさぎの耳みたいなのはっぱ（朝顔の双葉を見て）」「（本葉をさわると）がさがさ、ちくちくして、くすぐったい」といった五感を使って対象の特徴をとらえた気付きを表出することができる。教師は、それらの気付きに対し、その気付きのよさを本人に価値付け、クラス全体に広げてきた。

また、6月になると、休み時間に虫とりをして遊び、校庭の自然にも目を向けるようになってきた。しかし、草花などの自然を利用した遊びに、十分浸ることはできていない。

そこで、もっと、身の回りの自然に目を向け、自然を利用した遊びをすることで、自然の面白さや不思議さ、自然を利用した遊びのよさを実感して欲しいと考える。

## こんな活動を

本単元は、校庭の自然に目を向け始めた子どもたちの興味・関心を生かして、身の回りの自然物を利用して遊んだり、遊びを工夫したりする活動を行い、自然の面白さや不思議さ、身近な自然を生活の中に取り入れる楽しさを実感し、気付きを深めていくことをねらっている。

まず、教師が「はっぱカード」や「はっぱのお絵かき」などの葉を利用した遊びを紹介し、身近な草や葉が楽しい遊び道具に変身すること、いろいろな種類の草や葉があることに気付くことができるようにする。この活動を通して、身の回りの自然に目を向けさせるとともに自然を利用して遊ぼうとする意欲を持つことができると思う。

次に、もっと、いろいろな自然を利用して自由に遊ぶ活動を行う。遊びにつかう草花や実などの自然物を校庭や公園で集めては遊び、遊んではもっと楽しくなるために工夫したり必要な自然物をさがしたりという活動を繰り返すことで、自然の面白さや不思議さ（多様性、形や色、模様などの面白さ、命の不思議さなど）や自然を利用した遊びのよさに気付くことができると思う。

さらに、同じ遊びをしている子どもたちでグループングすることで、子どもたちがかわり合いながら活動を深めていくことができるようにする。

最後に各グループの遊びを交流する活動「きて、みて、やってみて、おもしろいよ！」を行うことで、自分や友達の気付きや活動のよさを価値付け合い、自己認識を高めることができるようにする。



## このような指導で

### (1) 自然現象に直接かかわり、そのおもしろさや不思議さを実感することができる活動の工夫

子どもたちが、いつも見過ごしている身近な草や葉が、遊び道具になることやその形や色の面白さ、多様性に気付くことができるように「はっぱのお絵かき」と「はっぱのこすりだし」「はっぱカード」の遊びを紹介する。この遊びのよさとしては、以下のことが考えられる。

- ・ はっぱのお絵かきは、葉の形や色を生かして絵をつくることで、形や色の違いや面白さに自然と気付くことができる。また、絵ができたときの達成感や面白さがある。
- ・ はっぱのこすりだしは、葉の形や葉脈の面白さに気付くことができる。葉の手触りを感じ取ることができる。また、葉の形や模様が浮き出たときの驚きや面白さがある。
- ・ はっぱカードは、作るのが容易で、材料が葉なので、多様な材料が豊富にいつでも手に入る。カードに使う葉をさがすことで、身近な葉の形・色・模様の面白さやその多様性に気付くことができる。遊びながら形や模様を比べることができる。

### (2) 科学の目と手の観点で、子どもの気付きを見取り価値付ける方法

#### <本單元における気付きの価値付けの観点>

- ・ 自然の面白さや不思議さへの気付き (多様性、形・色・模様・触感の違い、形状の面白さ、命を繋ぐためのちえなど)
- ・ 自然物を利用した遊びの工夫への気付き (自然物の特徴を生かした工夫、自然物の材料の工夫、遊びの場の工夫、遊びの発想の工夫など)
- ・ 自分や友達の活動のよさへの気付き (活動の工夫、友達とのかかわり方など)

#### <本單元における科学の目と手を用いて活動を進める子どもの具体的な姿>

##### 五感を使ってありのままに感じる目

- ・ べたべたした実が指にくっついた。
- ・ いいにおいのするはっぱを見つけた。
- ・ 羽みみたいなものがついた種がおもしろい。

##### 比べてみる目

- ・ まわりがギザギザの葉とまわりが丸くなった葉があるよ。
- ・ 花びらの色と色水の色がにているよ。
- ・ マリーゴールドの種は細長いけれど、オシロイバナの種は小石みたいだね。

##### 関係付ける目

- ・ 葉っぱが柔らかいほうが、草笛が鳴りやすいよ。
- ・ ふわふわの綿毛がついているから、遠くまでとんでいくんだね。
- ・ ドングリは、先がとがっているから、ここで回っているんだよ。

##### 試してみる手

- ・ 2つの花の色水を混ぜてみよう。どんな色になるかな。
- ・ いろいろな形の種をもっと集めてみよう。
- ・ もっと、よく回るドングリゴマになるように、軸の長さをかえてみよう。

- ・ 五感カードの掲示により、五感を駆使することやどの感覚を使ったのかを自覚できるようにする。
- ・ 子どもの気付きを表出させ、価値付けるための対話やコメントによる支援を行う。
- ・ 子どもの活動の様子や作成物の変容を観察したり、子どもの言語表現にみられる擬音・擬態語や比喩表現に着目したりすることで、子どもの言葉や行動の裏に隠された気付きを見取る。
- ・ 科学の目と手にかかわる気付きを価値付けるためのカードや気付きの足跡が見える環境の工夫を行う。

(3) 子どもが主体的に活動をおこない気付きの質を高めていく単元構成と場の工夫  
自然事象と出会う活動や体験「やってみよう！」

＜自然事象の面白さや不思議さを実感する活動や体験＞	
ねらい	身近な自然への興味・関心をもち、自然を利用しているいろいろな遊びをしたいという思いを持たせる。
指導と場の工夫	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教師から「はっぱの絵」と「はっぱのこすりだし」「はっぱカード」を紹介し、身近な植物を遊びに利用する物として見るができるようにするとともに、自然物でいろいろな遊んでみたいという思いを持てるようにする。</li> <li>・はっぱの絵やカードの実物を準備しておき、参考にできるようにする。(ヒントコーナー)</li> <li>・簡単に、こすりだしやカードが作れるように必要な材料を準備しておく。</li> <li>・カードは、葉の手触りがわかるように、透明シートを使用する。</li> </ul>

交流活動1「みつけたよ！」

＜気付きを比べたり関係付けたりして、次の活動へ学びをつなげる交流活動＞	
ねらい	身近な植物の多様性や特徴、また、その特徴を生かした遊び方があることに気付くことができるようにする。
指導と場の工夫	<ul style="list-style-type: none"> <li>・活動の後にふり返りカードを書くことで、気付いたことを表出できるようにする。</li> <li>・五感カードを活用して植物の特徴を五感でとらえることができるようにする。</li> <li>・「はっぱの絵やこすりだし」「はっぱカード」で遊ぶことで、葉の形を比べたり、葉の多様性や特徴に気付いたりすることができるようにする。また、交流した多様な気付きを板書によって整理する。</li> <li>・自然物を利用した遊びを紹介するヒントコーナーを設定し、遊びへの意欲付けを行う。</li> </ul>

気付きを生かして活動を広げ・深める「もっと、やってみよう！」

＜気付きを自分の活動に生かしたり、試したり、試行錯誤したりする活動＞	
ねらい	身のまわりの自然物を利用して遊んだり、遊びが楽しくなる工夫を考えたりすることができるようにする。
指導と場の工夫	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自然を利用した遊びの紹介の本や資料を準備し、いろいろな遊びを試してみようとする意欲を持たせる。</li> <li>・同じ遊びをしている子どもどうしをグルーピングし、遊ぶ場を設定することで遊びながら気付きを交流し、価値付け合うことができるようにする。</li> <li>・自然物や遊びに使える容器・道具などを準備した材料コーナーを設定し、活動が広がるようにする。</li> <li>・子どもたちが遊びに利用した自然物の写真やそれがあある場所を印した自然マップと子どもたちの気付きのカード(遊びの工夫・遊びを通して気付いた自然物の特徴など)、活動の様子の写真、気付きを価値付けるコメントカードを掲示した「遊びコーナー」を設定することで、気付きを生かして活動を行うことができるようにする。</li> </ul>

交流活動2「わかったよ！」

＜互いの気付きや学びのよさを価値付けあい、学びを確かにする交流活動＞	
ねらい	各グループの遊びを交流することで、自分や友達の遊びのよさに気付くことができるようにする。
指導と場の工夫	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ワークショップ形式で交流を行い、各グループの遊びを体験することができるようにする。</li> <li>・自分たちの遊びのよさを相手にうまく伝えることができるように、表現方法の支援を行う。</li> <li>・交流活動の後で、ふり返りカードを書き、発表することで互いの遊びのよさを価値付け合うことができるようにする。</li> <li>・各グループの遊びを体験しやすい場の工夫を行う。</li> </ul>

4 指導計画 (全11時間) . . . 科学の目と手につながる支援

過程	活動のねらい	子どもの活動の姿
つかむ	<p>草花でいろいろな遊びをしようという思いを持つことができる。</p> <p>葉っぱ遊びに使える葉を探して遊ぶことができる。</p> <p>葉っぱの色や形や面白さに気付くことができる。</p>	<p style="text-align: center;">子どもの活動の姿</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p style="text-align: center;">いろいろな葉っぱを集めて遊ぼう。 <span style="float: right;">3時間</span></p> </div> <p>・葉っぱを探して、遊びのグループを作る。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-between; margin-top: 10px;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 30%;"> <p>もみじの葉はカードによさそう。</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 30%;"> <p>この葉の形を写してみたいな。</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 30%;"> <p>ぎざぎざの葉っぱをあつめて動物をつくりたい。</p> </div> </div> <p>・カード、こすりだし、お絵かきをして遊ぶ。</p> <div style="text-align: right; margin-top: 10px;"> <p><b>本時 3 / 11</b> <b>(みつけたよ!)</b></p> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-between; margin-top: 10px;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 30%;"> <p>いろいろちがう葉っぱがあったよ。</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 30%;"> <p>こすりだして線の模様がでておもしろかった</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 30%;"> <p>ぎざぎざ動物ができてうれしい。</p> </div> </div> <p style="border: 1px dashed black; padding: 2px; margin-top: 10px;">草花や木の葉でいろいろな遊びがしたいな。</p>
ふかめる	<p>見つけた草花などでいろいろな遊びをすることができる。</p> <p>遊びが楽しくなるような工夫をすることができる。</p> <p>自然の面白さや不思議さ自然を利用した遊びのよさに気付くことができる。</p>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p style="text-align: center;">遊びに使える秋の「お宝」を探して 遊ぼう。 <span style="float: right;">5時間</span></p> </div> <p>・校庭，通学路，公園などで草花・木の实などを探して遊ぶ。</p> <div style="text-align: right; margin-top: 10px;"> <p><b>(もっと、やってみよう!)</b></p> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-between; margin-top: 10px;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 30%;"> <p>どんぐりごまを作ったよ。小さくてもよく回るよ。</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 30%;"> <p>おしろい花で、ピンクの色水ができたよ。他の花でもつくりたいな。</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 30%;"> <p>いろいろな形の種があっておもしろいな。</p> </div> </div> <p>・グループを作って、もっと楽しくなるよう遊びを工夫する。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-between; margin-top: 10px;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 30%;"> <p>ぼくのどんぐりごまが、もっとよくまわるように軸の長さをかえてみよう。</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 30%;"> <p>わたしは、花や実を集めて色水を作ったよ。色水どうしを混ぜてみようかな。</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 30%;"> <p>集めた草や実で、色とりどりのお弁当ができたよ。みんなにもみせたいな。</p> </div> </div> <p style="border: 1px dashed black; padding: 2px; margin-top: 10px;">お宝で遊んだことを友達にも教えたいな。</p>
ひろげる	<p>自分や友達の遊びのよさに気付くことができる。</p>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p style="text-align: center;">「きてみて、やってみて、おもしろいよ」をしよう。 <span style="float: right;">3時間</span></p> </div> <p>・各グループの遊びを交流する計画を立て、準備する。</p> <p>・グループごとに「きて、みて、. . .」をして遊びの紹介をしたり、一緒に遊んだりして、交流する。</p> <div style="text-align: right; margin-top: 10px;"> <p><b>(わかったよ!)</b></p> </div> <p>・カードを書いて発表し、互いのグループの遊びのよさを価値付け合う。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-between; margin-top: 10px;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 30%;"> <p>もっともっと回るこまをつくって、こま名人になるぞ。</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 30%;"> <p>たくさんの色水を変身させるのがおもしろかったよ。</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 30%;"> <p>さんの種のお弁当作りが楽しかった。</p> </div> </div> <p style="border: 1px dashed black; padding: 2px; margin-top: 10px;">これからも、いろいろな草花や木の实を使った遊びがしたいな。</p>

指 導 と 支 援	評 価 と 見 取 り の 方 法
<p>草花遊び（はっぱカード・こすりだし・お絵かき）を紹介して、身近な自然に目が向けられるようにする。</p> <p>五感カードを使ったり、ふり返しカードを書かせたりすることで、身近な自然の多様性や特性に気付くことができるようにする。</p> <p>教材提示機を準備しておき、葉の特徴がよく見えるようにする。</p> <p>透明シートを使って葉っぱカードを作るようにすることで、葉っぱの色や模様、触感が感じとれるようにする。</p> <p>子どもの発言や活動の中にみられる気付きを、問い返したり、価値付けたりすることで、気付きのよさを引き出し、広げていくことができるようにする。</p>	<p>【関心・意欲・態度】 葉っぱ遊びに使える身近な植物を進んでさがすことができる。 (行動観察・発言)</p> <p>【思考・表現】 葉っぱの形状、色を考えて、並べたり、作ったりできる。 (行動観察・作品・発言)</p> <p>【気付き】 葉っぱの色や形などの違いに気付くことができる。 (発言・カード)</p>
<p>教師は、子どもどうしが認め合い・価値付け合っている姿を評価し、子どもの活動への意欲が連続するようにする。</p> <p>体験活動の後で、見つけたことや遊んだこと、気付いたことをふり返しカードに書くことで、自分の気付きや活動などのよさをふり返し、とらえ直すことができるようにする。カードは、遊びコーナーに掲示し、友達の活動や気付きも交流できるようにする。</p> <p>五感を意識しながら活動ができるように、教室に五感カードを掲示する。</p> <p>草花遊びに関する本や資料を提示する。</p> <p>子どもが身近な自然に十分浸ることができるように、繰り返し活動できるようにしたり、必要に応じて場所や材料・道具の支援をしたりする。</p> <p>遊びコーナーを設定して、友達が紹介した遊びを掲示し、遊びの交流ができるようにしておく。</p> <p>教師は、子どもの感性に共感する言葉かけ、気付きを表出させるような問いかけ・子どもの納得や活動の発展につながるような言葉かけなどを行い、自然物の特徴や遊びの工夫に関する気付きを価値付けていく。</p> <p>もっと工夫したい遊びごとのグルーピングを行い、友達とかがわり合いながら遊びの工夫が行えるようにする。</p> <p>活動が停滞している子には、友達と協力することのよさや楽しさに気付く事ができるようなグルーピングや場の設定の工夫を行う。</p>	<p>【関心・意欲・態度】 身近な自然を利用してすすんで遊ぼうとすることができる。 (行動観察・発言)</p> <p>【思考・表現】 身近な自然を利用した遊びを試したり、もっと楽しくなる工夫を考えたりすることができる。 (行動観察・作品)</p> <p>【気付き】 自然の面白さや不思議さに気付いたり、自然を利用した遊びのよさに気付いたりする。 (行動観察・つぶやきカード・作品)</p>
<p>交流活動で、他のグループの遊びを体験することで、子どもの体験や気付きがより広がったり、子どもどうしの価値付け合いができるようになる。</p> <p>活動の後のふり返りの交流で、友達や自分の遊びのよさに気付いている子を価値付け合うことができるように声かけをしていく。</p>	<p>【関心・意欲・態度】 遊びを準備し、友達と楽しく遊ぼうとする。 (行動観察・作品・発言)</p> <p>【思考・表現】 自分の遊びのよさを伝えるため、表現方法を工夫することができる。 (行動観察・作品)</p> <p>【気付き】 友達や自分の遊びのよさに気付くことができる。 (発言・カード)</p>

# 第1学年 本時学習指導案

5 本 時 第3 / 11時

## 6 本時の目標

<身近な環境や自分自身への気付き>

葉っぱの遊びを通して、自分の生活の場にある自然（葉）に関心を持ち、その特徴や多様性に気付くことができる。

## 7 本時指導の考え方

本時までには子どもたちは、1学期に学校探検で校舎内を、主に五感の目・耳・手を使って探検してきた。学校探検で見つけたことはふり返りカードに書き、発表し交流していった。また、自然事象に関しては、朝顔を栽培し、継続的にふり返りカードに、生長の様子を五感を使って観察してきた。さらに、校区内の公園を探検した後、自分の見つけたものを「見つけたよカード」に記入する活動を行い、五感を使って対象をとらえていく力が、少しずつではあるが育ってきている。

初めに、子どもたちがいつも見過ごしている身近な草や葉が、遊び道具になることやその形や色の面白さ不思議さに気付くことができるように、教師から「葉っぱカード、葉っぱのこすりだし、葉っぱのお絵かき」の3種類の活動を紹介した。この遊びのよさは、子どもたちが活動する中で、五感を使った様々な気付き（形・大きさ・色・肌触り・匂い）が持てることにある。これらの遊びを通して、今後、もっといろいろな自然物を利用して遊んでみたいという思いを持つことへつなげていきたいと考える。子どもたちは、前時までには、自分の遊びに使いそうな葉っぱを集めてきている。その後、自分がどんな遊びをしたいか考えグルーピングをした。

そこで本時では、その思いを受けて、「はっぱであそぼう。」というめあてを提示する。まず、ヒントコーナーを見せ、本時の活動の見通しを持てるようにする。その後、一人一人で自分のカードや作品を作り上げていく。葉っぱカードのグループは、全員のカードを使ってゲームに取りかかる。葉っぱのこすりだしのグループは、自分が集めた中から葉を選んで順番にこすりだしをしていく。葉っぱのお絵かきのグループは、作りたい物のイメージをもたせ活動していく。これらの活動には時間を十分に保障し、作ったり遊んだりする楽しさを実感しながら、その形や色・大きさ・模様の違いに気付きが得られるようにする。

そして、葉っぱ遊び後の交流では、遊びをして思ったこと、友達の葉を見て思ったこと、友達と自分の葉を比べての気付きなどの発表を行う。教師は、子どもたちの多様な気付きを賞賛・共感・価値付けるとともに、気付きを整理する板書をおこなうことで、本時の活動での学びを確かめる。最後に、子どもたちに、次時にどのような自然を利用した遊びがしたいか尋ねるとともに、次時の活動のヒントになる草花や木の実遊びに関する資料を提示し、いろいろな遊びを試してみようとする意欲を持たせたい。

8 準

備

教 師・・・葉っぱカード・葉っぱのこすりだしの絵・葉っぱのお絵かきの絵  
木工用ボンド・こすりだしの紙・画用紙・透明シート・はさみ  
草花遊び拡大カード・教材提示器・五感カード  
児 童・・・葉っぱ・色鉛筆・パス・筆記用具

9 本時の展開 (3/11)

学習活動と子どもの姿

- 1 前時までの活動をふり返り、本時のめあてを確認する。  
 (1) 前時までの活動をふり返る。



いろいろな形の葉を  
たくさん集めてき  
たよ。

葉っぱで、動物  
が遊んでいると  
ころを作りたい。



- (2) 本時のめあてを確認する。

は っ ぱ で あ そ ぼ う。

- 2 葉っぱ遊びの活動を行う。

カード



葉っぱのまわりがギザギザしている。クリスマスツリーみたいな形をしているね。

こすりだし



葉っぱの模様がたくさん出てきておもしろいな。いろいろな色でこすりだしてみよう。

お絵かき



いちじくの葉は、ちようちよのはねみたい。ヒントコーナーに、ペンギンののっていたので、今度はそれがつくってみたいな。

- 3 今日の学習をふり返り、交流する。  
 <葉っぱカードグループ>



きれいなカードができてうれしいな。いろいろな形のカードが集まったので、トランプ遊びもできそうだな。

葉っぱが緑やオレンジや黄色がありました。葉っぱも色が変わるんだな。



- <葉っぱのこすりだしグループ>



線の模様がおもしろいな。

こすりだしたら、すごくきれいだったよ。今日、お母さんに持って帰ってプレゼントしたいです。



- <葉っぱのお絵かきグループ>



さんのつくった魚の葉っぱは、おもしろい形している。どこで見つけたのかな。

今度は、ヒントコーナーのペンギンをつくりたいな。



- 4 次時の活動について知る。  
 ・葉っぱや木の実などを使って、他にどんな遊びができるか話し合う。  
 ・遊びの紹介を聞く。(葉っぱトランプ、葉っぱのはがき、どんぐりごま)

・・・科学の目と手につながる支援

指導と支援	評価と見取りの方法
<p>今までの活動を想起し、ふり返ることができるように、活動の写真やカードを提示しておく。</p> <p>五感を意識しながら活動ができるように、教室に「五感カード」を掲示しておく。</p> <p>葉っぱを透明シートに貼る際、葉を手で触りながら、ゆっくりとシートを貼っていくようにさせる。</p> <p>各グループで使用する材料を準備しておき、作り直しができるようにしておく。</p> <p>ヒントコーナーを設定し、いくつか見本を準備しておき、活動が停滞している子への支援とする。</p> <p>&lt; 葉っぱカードのルール &gt;</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・ 自分の4枚のカードを机に並べる。</li><li>・ グループ1名の人から、時計回りにカードをめくる。</li><li>・ 2枚のカードをめくり、同じ葉っぱだったら、自分のものとする。</li><li>・ 順番が回ってきたら、一人につき1回だけ(2枚だけ)出来る。同じカードがでて、2回目をしない。</li></ul> <p>&lt; 葉っぱのこすりだし &gt;</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・ 力をいれすぎると、紙がやぶれてしまうので、力加減を考慮するように声をかけたり、手本をみせたりする。</li><li>・ 葉っぱの葉脈がきれいにでる用紙を与える。</li></ul> <p>&lt; 葉っぱのお絵かき &gt;</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・ 木工用ボンドをつけすぎないようにする。</li><li>・ 葉は、はさみや手で切らないようにする。</li></ul> <p>遊びをして、感じたこと、気付いたことを発表し、ふり返りカードに書かせ、自分の気付きをはっきりと言葉で表現出来るようにする。</p> <p>教師は、子どもの感性に共感する言葉かけ・子どもの気付きを共に見つけ、理解しようとする問い返し・気付きを表出させるような問いかけ・子どもの納得や活動の発展につながるような言葉かけなどを行う。</p> <p>また、子どもどうしの価値付け合いを認める言葉かけを行う。</p> <p>子どものつぶやきや発言を大切に、直感的な特徴をとらえた気付きや違い、違いや類似をとらえた気付きなど、科学の目や手にかかわる気付きを見取り、価値付けて行く。</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・ 葉っぱの大きさをくらべたんだね。</li><li>・ はっぱの周りの形をよく見たね。</li><li>・ 葉の形を、ちょうちょのはねと比べたんだね。</li><li>・ 葉っぱの色は黄色、緑、赤といろいろあるのに、気付いたんだね。</li><li>・ 葉っぱの線の模様をいろいろみつけたね。</li></ul> <p>次時の活動のヒントになる自然を利用した遊びに関する資料を子どもたちに提示し、今後、本や資料を教室に置いておく。</p>	<p>【気付き】 葉っぱの形・大きさ・色の違いなど気付くことができる。 (発言・つぶやき・行動観察・カード)</p>